

2009年度(平成21年度)学校評価自己評価表

No.1

最終更新日	2009年(平成21年)5月7日
-------	------------------

校番 54	福山市立野々浜小学校
-------	------------

1 学校教育目標

個性を生かし豊かな心と主体的な実践力のある子どもの育成

2 経営理念

(1) 地域社会における自校の使命(ミッション)

地域に夢と希望を与える存在として、一人一人の児童が基礎的・基本的な内容を確かに学びとる教育を実践し、地域・保護者に信頼される学校づくりをめざす。

(2) 使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像(ビジョン)

1 確かな基礎学力を身につける学校

- ・基礎的・基本的な内容を確実に習得させるための繰り返し学習を展開している。
- ・活用力を高めるため、思考力・判断力・表現力を育成する授業を展開している。
- ・豊かな心もち、規律ある生活ができています。
- ・学習を支える美しい環境ができています。
- ・よく遊び、進んで運動することができています。

2 開かれた学校

- ・校内の取組みが教職員で共有化できている。(内を開く)
- ・情報公開を通して家庭・地域との深い連携ができています。(外を開く)

3 人材の育つ学校

- ・専門的な知識と授業力が育っている。責任ある組織的動きができる。
- ・公務員として、社会人としての自覚と実践力がある。

3 自校の現状分析

学力診断テスト(ABC)の結果、国語「読む」「言語」の2領域、算数「数学的な考え方」は全国平均並みであった。しかし、国語「話す・聞く」「書く」、算数「表現・処理」「知識・理解」の領域は、全国平均を2ポイントから4ポイント下回っている。だから、繰り返し学習の充実による基礎・基本の確実な習得と諸能力(思考力・判断力・表現力)を育成し活用力を高める授業づくりを進めていく。

「あいさつ」「掃除」については、道徳学習や生活チェックカードでのふり返し活動によって、児童自己評価が平均約86%となった。より主体的に自己指導力を高める児童を育成していく。

新体力テストの県平均に到達した項目は、約55%である。「ボール投げ」や「持久力」の向上と各クラスに課題の改善をめざし、セット運動の内容改善を図っていく必要がある。

分掌はマネジメントサイクルに従い課題の改善まで示せた。各主任、主事がプロセス作業表に従い、さらにリーダーシップを発揮できるように指導力をつけていく。

4 研究主題

(1) 研究主題

心をひらき 共に考え よりよく生きようと学び合う児童の育成
 ~ 道徳の時間における**伝え合い**の充実と
価値意識をつなぐ学習プログラムの工夫を通して ~

(2) 研究指定

指 定	事 業 名 等	期 間
文部科学省 市	道徳教育実践研究事業 教育研究支援事業(道徳)	平成20年~平成21年 平成20年~平成22年

5 今年度の重点目標と設定理由

重 点 目 標	設 定 理 由
学び合う授業づくり	・発言を比較し、類似点・相違点を見つけ、自分の考えをより深めていくことを通し論理的思考力・表現力を高めていく。
道徳的実践力の向上	・道徳教育で育んだ規範意識を実践につなげる。
体力の向上	・セット運動、食育の充実を図る。
効率的な学校運営	・組織の一員としての自覚の高揚を図る。

6 評価基準

評価・指標評価	基 準	
A・a	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた
B・b	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた
C・c	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた
D・d	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった
E・e	40%未満の達成度	目標を達成できなかった

・自己評価(中間)の基準は、10月20日までの計画に対する達成状況とする。

7 目標・評価項目・指標等の設定と評価

市重点 目 標	年 目	中期経営目標	重 点	分類	短期経営目標	(最終) 評価	評価項目・指標等 (成果 取組み 成果と取組み に着目)	(最 終) 指標 評価	評価項目・指標 短期(中期)経営目標の達成状況 改善方策
確 か な 学 力	1	習得・活用を図る 授業を通して、学 力診断テストで 全クラス総合平 均 100% クリ アする。		継続	「学習の深め方」が分 かり、めあてが達成できる 児童を 80% 及び 90% 以 上にする。		なかま学習の場で、自分と友達との類似点・相違点を見 つけながら学習できる児童を 80% 以上にする。 学習過程のまとめの段階に適応問題を 90% 以上実施し習得を図る。 学習のめあてが達成できた児童を 90% 以上にする。		
				継続	学習内容が「おおむね満 足」の児童を 83% 以上に する。		単元テストで「おおむね満足」に達する児童を 83% 以上 にする。 毎月実施計画を立て、100% チャレンジタイムを実施 する。		
豊 か な 心	2	自分の心や行動 をよりよくしよ うという気持ち になった児童を 90% 以上にす る。		継続	自分をふり返り、思いや 考えを深めることができ る児童を 83% 及び 90 % 以上にする。		「道徳の授業で自分を振り返ることができた」という児 童自己評価を 83% 以上とする。 「総合単元的な道徳学習の各内容を結びつけて児童の意識 を深めることができた」という児童・教師自己評価を 9 0% 以上とする。		
	3			継続	進んで全校音楽に取組む ことができる児童を 9 0% 以上にする。		「音楽のよさ」(意欲・技能・達成感)が分かるという児 童自己評価を 90% 以上とする。		
健 や	2	自己指導能力(判 断・行動・結果責 任)が高まった児 童を 90% 以上 にする。		継続	あいさつを高めることが できた児童を 90% 以上 にする		あいさつステップアップカードを使い、ステップアップ できたという児童自己評価を 90% 以上とする。		
				継続	掃除の意義が分かり、気 づきのある行動ができた 児童を 85% 以上にす る。		気づきのある掃除ステップアップカードを使い、ステッ プアップできたという児童自己評価を 85% 以上とす る。		
2	体力向上担当教 員を中心にした		継続	児童の投力・持久力を県 (全国)平均にする。		新体力テストの県平均達成を、53% 以上とする。(課 題:投力・持久力)			

(管理規則第3条実施要領 別紙様式)

かな 体		体力向上対策の 100%実施す る。				「セット運動ができた」という児童自己評価を88%以上とする。	
			継続	3大栄養素を意識できる児童を5%アップさせ 給食を残さない児童を90%以上にする。		3大栄養素を意識できる児童を5%アップさせる。(昨年度78.9%) 給食を残さない児童を90%以上にする。	
力量ある 教職員	3	分かりやすい授業を実施したという児童・教職員の肯定的評価90%以上とする。	継続	研修を活かして 分かりやすい授業を実施できる教員を90%以上にする。		「先生の授業は分かりやすい」という児童評価を85%以上とする。 「研究授業などを中心にした研修を通して、授業力を高めることができた」という教師の肯定的評価を90%以上とする。	
	1	研修で学んだ内容を授業改善に活かした実施率90%以上にする。	新規	研修を活かし授業改善できる教員をまず80%以上にする。		研修(校内授業研修, 指定・任意研修等)で学んだことを, 授業改善に活かすことができたという教職員の肯定的評価を80%以上にする。	
信頼される 学校	3	学校の情報発信に対する保護者・地域の満足度を80%以上にする。	継続	学校の教育方針に従って成果や様子を伝えることができる教職員を育成する。		教育目標に向けて努力している子どもの姿や学校の様子を載せた便りを, 月2回以上発行する。 ホームページを各学年, 学期1回更新する。	
	2	評価・改善シートを活かし, 教育の質の向上が図れたと言う教職員の自己評価80%以上にする。	継続	具体的な改善策が示せる教職員を80%以上にする。		各学期末(7月・12月・2月)には, 具体的な改善策を示し, 改善を図ったとする教職員の肯定的自己評価80%以上にする。 学校評価と教職員の自己申告の連鎖率85%以上にする。	